

# 「TKC関東信越会 創設50周年記念式典」

2023.7.26(水)

大宮ソニックシティホールにおいて「TKC関東信越会 創設50周年記念式典」が、TKC会員・職員620名、来賓・提携・協定企業、覚書締結金融機関他 総勢約750名参加のもと開催された。

記念式典は、岡本圭司・渡邊日奈子両会員の司会により国歌斉唱の後、原田伸宏会長の挨拶で始まった。その後、高柳尚弘実行委員長の挨拶があり、続いて来賓の坂本孝司TKC全国会会長、飯塚真玄株式会社TKC名誉会長、田宮良則日本政策金融公庫信越地区統轄から祝辞をいただいた。

続いて、50周年記念表彰の授与式が行われ、「入会50年経過会員表彰」では、栃木支部 渡邊敏一会員、新潟支部 松本雄司会員、長野支部 篠原捷四会員、長野支部 望月宗敬会員が授与され、代表して篠原捷四会員から挨拶をいただいた。また、「歴代会長表彰」では、TKC関東信越会第4代会長 望月宗敬会員、第5代会長 永田智彦会員、第6代会長 栗林豊会員が授与され、代表して望月宗敬会員より挨拶をいただいた。

その後、記念式典は、篠原仁志副会長の閉会挨拶で締めくくられた。



入会50年経過会員表彰



歴代会長表彰



原田 伸宏  
会長



高柳 尚弘  
実行委員長



田宮 良則  
日本政策金融公庫信越地区統轄



TKC関東信越会事務局への  
感謝状贈呈



篠原 仁志  
副会長



北原 睦朗  
大同生命保険株式会社代表取締役社長



永田 智彦  
最高顧問



浜村 智安  
副会長

記念式典終了後、坂本孝司TKC全国会会長により、「税理士の未来—中小企業金融における税理士の役割—」というテーマで50周年記念講演が行われた。

その後、飯塚真玄株式会社TKC名誉会長により、「TKCシステムの開発思想」というテーマで特別講演が行われた。

記念講演・特別講演終了後はパレスホテル大宮においてレセプションが開催された。

長崎晃大・荻美紀両会員の司会のもと、原田伸宏会長、高柳尚弘実行委員長の挨拶があり、続いて北原睦朗大同生命保険株式会社代表取締役社長より祝辞をいただいた。

永田智彦最高顧問の乾杯で始まったレセプションは、浜村智安副会長の閉会の挨拶で盛会のうちに締めくくられた。

## 基調講演



### 「税理士の未来 —中小企業金融における税理士の役割—」

TKC全国会 坂本 孝司 会長

50周年記念講演として、TKC全国会坂本孝司会長より「税理士の未来 —中小企業金融における税理士の役割—」と題して講演をいただいた。

冒頭に「TKC全国会創設から50年間は租税正義の実現に邁進した。これから先の未来は、経営助言と保証業務。税務当局はもちろん地域金融機関から絶大な信用がある税理士が顧客から一目置かれるようになるのは確実。」と述べられた後講演に入られた。

講演では、中小企業金融における税理士の役割として重要なことは地域金融機関と税理士との連携強化であり、そのためのポイントとして「顔の見える関係」構築がカギであることを述べられた。「この先生が作成した決算書であれば信頼できる」と地域金融機関から言ってもらえる環境を作る、そのためには個々の税理士事務所は業務品質の向上により「信頼性 (Reliability)」を高め、TKC全国会・地域会の組織としては運動展開により「信用力 (Credibility)」(ブランド) を高めようとエールを送られた。

また、TKC方式の書面添付は元々の「申告書に関する税理士の作成証明書」から「申告書に関する税務監査証明」「決算書の信頼性を間接的に保証する」という位置づけへの「イノベーション (新結合)」であり書面添付が中小企業金融のカギになると述べられた。

日本とも親和性があり、日本に先んじているドイツの中小企業金融においては、税理士は「決算書の作成証明書 (ベシャイニグング)」による決算書の信頼性の担保と企業への「格付けコンサルティング」の2つの側面で中小企業を支援しており、金融機関と税理士との間には理想的な信頼関係が構築されている。日本でも「書面添付」と認定支援機関としての「財務経営力と資金調達力」の向上支援という2つの側面から中小企業を支える仕組みができており、我々に追い風が吹いているという言葉をいただいた。

最後に「税理士は『士 (さむらい) 業』。「士魂商才」の精神を堅持し、自信をもって事務所経営に邁進してください」と激励の言葉をいただき講演を終えられた。

## 特別講演



### 「TKCシステムの開発思想」

株式会社 TKC 飯塚 真玄 名誉会長

特別講演として、株式会社TKC飯塚真玄名誉会長より「TKCシステムの開発思想」と題して講演をいただいた。

飯塚毅TKC全国会初代会長が税理士事務所を開業して20年後にTKCを創業した。TKCシステムの開発思想はそれまでの飯塚毅初代会長の20年間の歴史がベースになっている。そして、TKCシステムの開発思想の基本にあるのは「申告是認率99%」を目指すことと述べられた。

現在飯塚名誉会長が懸念されていることは巡回監査率が低下していること。とりわけ入会年数別に巡回監査率を分解したグラフでは、入会歴の浅い会員ほど巡回監査率が低くなっており、金融機関からの信用失墜を招くことになり、大きな問題であると述べられた。

昔は税務当局との関係は熾烈であったため、税理士は税務当局からの用心棒的役割であった。最近環境が変わってきている。税務当局とは協力関係にあり、敵対する相手ではなくなった。コンピューターリテラシーも関与先の方が高い場合も出てきており、システムに関し税理士に頼らない場面も出てきている。これから先10年後20年後に成功するためには、先達の会員が行ってきたことのその先を行かなければならない。飯塚毅初代会長をはじめ「申告是認率99%」を達成してきた偉大な先達がいる。若い会員にはまずは先達の通った道を進んだうえで、さらにその先にステップアップしてほしいと激励を述べられた。

講演後には、TKCシステム開発研究所の松嶋氏より自計化システムに新たに搭載された「レシート入力方式」のデモを披露していただき、TKCシステムの進化を確認することができた。